

特別支援学級

1 研究テーマ

表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫
ー日常生活の指導（朝の会）を通してー

2 育てたい力

◆表現力

- 表現したいという欲求を自分なりの伝達手段で表せる力
- 感覚や感情を言葉で表せる力
- 聞き止めて聞き分けて、言葉で表現できる力

◆コミュニケーション力

- 自分なりの表現の仕方と相手と遣り取りできる力
- 楽しい自然な雰囲気の中で会話が出来る力
- 相手の話を聞ける力

3 研究の視点と手だて

〔視点1〕言語交流を促す支援のあり方（生活全般）

- ・構えや飾りのないリラックスしたかかわり
- ・熱心に耳を傾ける姿勢
- ・子供の感情に付きそう温かいふれあい
- ・ゆとりのある姿勢
- ・子供をあるがままに受け入れる姿勢
- ・ほどよい心理的距離

〔視点2〕子供が楽しく自由に言語活動（朝の会等）ができる活動内容の工夫

- ・子供にわかりやすい朝の会の内容の工夫（活動の流れのある程度の固定化・パターン化）
- ・静（言語活動）と動の活動を取り入れ生活のリズム作りの工夫

〔視点3〕言語活動の日常化

- ・朝の会での思い出発表等、日常生活の中で自然な雰囲気の中で言語活動ができるように他教科との関連を図る

〔視点4〕子供一人一人の実態（言語課題）に応じた指導技法の工夫

- ・促しの技法
- ・繰り返しの技法
- ・要約の技法
- ・解釈の技法
- 保証の技法
- ・質問の技法
- ・指摘の技法

特別支援学級 成果と課題

特別支援学級では表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫という校内研究のテーマにせまるために日常生活の指導(朝の会)の実践を通して研究に取り組んできた。研究の視点と手だてを通して明らかになった成果と課題については以下のとおりである。

【成 果】

〔視点1〕言語交流を促す支援のあり方（生活全般）

○表現力やコミュニケーションの取り方に多くの課題をもつ子供たちに対する言語刺激については生活の中（学習活動・遊び）のあらゆる場面で指導者側の意図的・自然発生的働きかけが大切である。子供との信頼関係を自然な形で築くことで実態に応じた構えない自然な楽しい会話が多くできるようになった。

〔視点2〕子供が楽しく自由に言語活動（朝の会等）ができる活動内容の工夫

- 活動内容をある程度一定化することで活動への見通しが立つようになり、活動中のつぶやきや質問、指導者側からの問いへの返答など対人との言葉の遣り取りが活発になってきた。
- この子供たちは「動くことで学習する」という原理を応用し静と動の活動をバランスよく取り入れたことにより、その時々之间的感情や感覚を少しずつ言葉で表すことができるようになってきている。
- 朝の会での司会にも全ての子供たちが意欲的に取り組んだ。パターンの流す子供もいれば、活動の流れをきちんと理解し上手に進行を努める子供など実態に沿った楽しい言語活動ができた。

〔視点3〕言語活動の日常化

- 毎日の課題の絵日記に意欲的に取り組むことにより、自身の発表力、発表している子供への傾聴力、関心のもてる内容に対する聞き止める力、聞き分ける力が大きく育ってきた。
- 一人一人の個性は豊かである。その個性に応じた自然な雰囲気の中での会話を大切にすることで自分なりの表現の仕方での遣り取りが少しずつ上手になってきている。
- 絵日記への積極的な関心と取り組みを他教科との関連において利用することで文字での表現力や実態に応じた言語能力の広がりの中で向上が見られた。

〔視点4〕子供一人一人の実態（言語課題）に応じた指導技法の工夫

- 表現力やコミュニケーション力を向上を図るために以下に掲げる技法をその時々の子供の心理状態を勘案し工夫した。
 - ①促し・・・うなずき、相づち、適切な質問などの最小限の励まし。
 - ②繰り返し・・・自分の言葉を相手の応答からもう一度聞くことによって相手に言い尽くされていない感情に気づいてもらう。
 - ③要約・・・頭の中を整理する手伝い。
 - ④解釈・・・原因と結果を整理して繰り返し課題を見つける。
 - ⑤保証・・・不安や恐れなどの感情を抱えている相手を安心させる。
 - ⑥質問・・・相手が考えているそのままの答えを導く。
 - ⑦指摘・・・共感受容の後、相手の矛盾を指摘しありのままの認識を促す。その結果、話すことの楽しさを感じられるようになってきている。また共感の意を込めた自発語の増加、記憶をたどった発言力の向上、聞き止め、聞き分けて思いを言葉で相手に返す力が伸びた。

【課 題】

子供たち自身の種々の生活経験からの表現力・コミュニケーション力の向上にも目を見張るものがあるが年間を通し毎日意図的にコミュニケーションをとれる学習の機会(朝の会)を設定することは表現力やコミュニケーション力の伸長にひじょうに大切なことである。そのためにはマンネリ化防止のための指導内容の工夫と吟味、自発的言語の受容、家庭との言語環境を整えるための連携、文字での自己表現活動も含めた他教科との関連も十分に考慮していかななくてはならないと考える。